

## 果樹を加害するチャバネアオカメムシの発生量は 平年より少ないと予想されます。

本年のチャバネアオカメムシの越冬量は、平年より少ない。

### [現在の状況]

昨年秋の、ヒノキにおける果樹カメムシ類の越冬前の成虫数は平年より少なく(第1表)、越冬量も少ないと考えられた。

本年2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査では、越冬地点率および越冬虫数は平年より少ない(第2表)。

以上のことから、本年は夏季の越冬世代成虫の発生量は少ないと予想される。

### [防除対策]

平成18年のような多発生は予想されないが、園内をよく観察して、発生に応じて適正な防除対策が実施できるよう準備が必要である。

チャバネアオカメムシは、ヒノキ・スギの球果を主な餌とし、ヒノキ・スギ林や、それらの近くのクヌギ等の落葉樹林の落ち葉の下等で越冬している。このため、発生が少ない年でも、これらの生息に適した場所の近くの園や、例年発生がみられる園では発生する可能性があるので注意する。

多目的防災網(6mm目以下あるいは9mmクロス目以下)を張るなどの物理的な防除対策を行う。果樹園では、まずウメやナシが加害されるので、ウメやナシを栽培している農家では、飛来初期(5月頃)から園内をよく観察するとともに、今後の発生情報に注意して防除を行う。

第1表 果樹カメムシ類のヒノキにおける発生状況調査(調査時期:10月)

年次	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
虫数(頭)	104	6	0	120	3

たたき落とし法による果樹カメムシ類の虫数/10 結果枝

第2表 チャバネアオカメムシの越冬量(調査時期:2月 落葉30リットルあたりの虫数)

地域	地点数	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	平均値
県北	21	1.7	1.6	0.2	22.4	0.3	3.6	0.1	0.1	21.7	0.1	5.2
鹿行	9	0.7	0.6	0.2	2.7	0.0	0.7	0.0	0.1	1.8	0.0	0.7
県南	6	2.3	3.6	0.0	1.7	0.5	0.3	0.8	0.0	0.5	0.2	1.3
県西	3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.5
全県	39	1.3	1.5	0.2	12.2	0.3	2.3	0.2	0.1	13.1	0.1	3.2
全県の越冬地点率(%)		55	37	11	75	22	48	10	7	74	10	-

